

1 幼児、児童、生徒の運動についての質問紙から分かったこと

(1) 調査の概要

① 調査の目的

本県幼児、児童、生徒の運動についての意識や行動の把握・分析を行うことを目的に、質問紙による調査を行いました。

② 調査対象

平成27年度熊本県体力向上モデル地域に指定されている保育園、小学校、中学校に在籍する幼児（解答は保護者）、児童、生徒としました。

③ 調査方法

調査は2回（1回目6月、2回目11月）実施し、幼児とその保護者に対して8項目（表1参照）4件法、児童と生徒に対して12項目（表2参照）4件法で行いました。2回目の調査は、1回目の調査結果との比較によって、体力向上モデル地域の取組を評価、分析することを目的として実施しました。

(2) 調査結果と考察

① 本県の幼児とその保護者の運動に対する意識や行動について

1回目の調査結果（表1、図1参照）から、本県の幼児とその保護者の運動に対する意識や行動について次の傾向が見られました。

○ 幼児は外遊びや運動が好きで上手になりたいと思っており、保護者もそのことを願っている傾向にあります。しかし、若干ではありますが、「外遊びや運動は好きだけど、実際には外遊びや運動はしていない」という状況も見られます。全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、運動時間の長い児童生徒は、体力が高いことが示されており、幼児期におけるこの傾向が、将来につながる体力・運動能力の低下の大きな課題であると考えられます。

表1 質問紙調査の項目内容と1回目の調査結果（幼児とその保護者を対象）

項目	内 容	4歳児 n=109	5歳児 n=104
1	お子さんは、外で遊んだり運動したりすることが好きですか。	3.82	3.84
2	お子さんは、外で遊んだり運動したりすることが上手にできますか。	3.56	3.57
3	お子さんは、外で遊んだり運動したりするとき、その運動が上手になりたいと思っていますか。	3.64	3.79
4	お子さんは、外でよく遊んだり運動したりしますか。	3.58	3.61
5	あなたは、お子さんに運動やスポーツを好きになってほしいと思う。	3.82	3.84
6	あなたは、お子さんに運動やスポーツが得意になってほしいと思う。	3.63	3.73
7	運動やスポーツをすることは、体や心によいことだと思う。	3.89	3.90
8	小さい頃の運動やスポーツの習慣は、将来の運動やスポーツの習慣に深く関係があると思う。	3.65	3.70

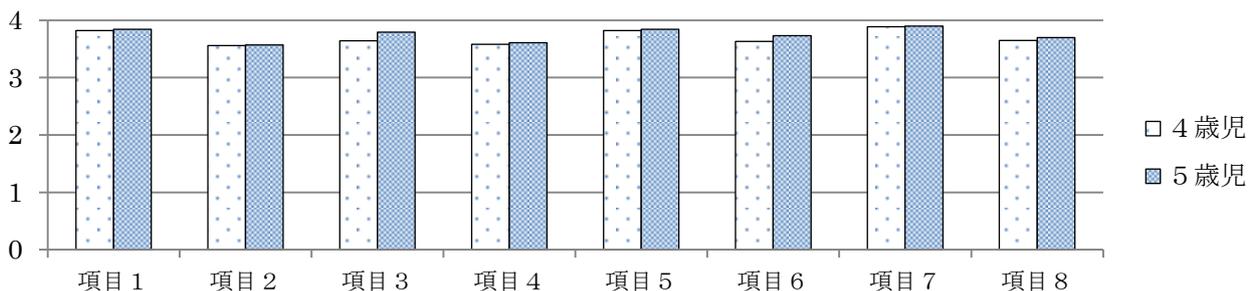


図1 1回目の調査結果（質問項目別得点）の4歳児と5歳児の比較

② 本県の児童、生徒の運動に対する意識や行動について

1 回目の調査結果（表 2、図 2 参照）から、本県の児童、生徒の運動に対する意識や行動について次の傾向が見られました。

- 本県の児童、生徒は、「運動が好き」で「上手になりたい」という気持ちがあります。そして、「体育が好き」で体育の時間に「せいいっぱい体を動かし」、「自分から進んで運動」しています。さらに、「運動することは体や心によい」と考えており、「学校生活や普段の生活の中でよく体を動かしている」傾向にあります。
- 運動に関する意識や行動は、学年が上がるにつれて低下していく傾向にあります。特に、「運動が得意」「体育の時間が好き」という項目の低下が顕著です。運動に対する有用感と体育学習に対する意識とに関連があることが考えられます。

表 2 質問紙調査の項目内容と 1 回目の調査結果（児童、生徒を対象）

	項 目 内 容	小 学 校			中学校 n=615
		低学年 n=897	中学年 n=912	高学年 n=908	
1	わたしは、運動が好きです。	3.66	3.58	3.39	3.09
2	わたしは、運動が得意です。	3.39	3.11	2.88	2.55
3	わたしは、運動するととても気持ちがいいです。	3.49	3.43	3.27	3.04
4	わたしは、運動するとき、その運動が上手になりたいと思います。	3.75	3.67	3.56	3.41
5	わたしは、運動するとき、どうしたらその運動が上手になるか、考えています。	3.40	3.23	3.13	3.03
6	わたしは、体育の時間が好きです。	3.78	3.65	3.49	3.06
7	わたしは、体育の時間では、せいいっぱい体を動かしています。	3.62	3.57	3.42	3.27
8	わたしは、体育の時間では、自分から進んで運動しています。	3.41	3.21	3.04	2.98
9	わたしは、体育で学習したことを、休み時間や放課後に試したり練習したりしています。	2.98	2.80	2.64	2.59
10	わたしは、学校生活や普段の生活の中で、体育の授業時間のほかにもよく体を動かします。	3.47	3.34	3.26	3.03
11	わたしは、運動することは体や心によいことだと思います。	3.64	3.60	3.53	3.71
12	わたしは、おとなになったとき、運動やスポーツをよくしていると思います。	3.43	3.19	2.92	2.74

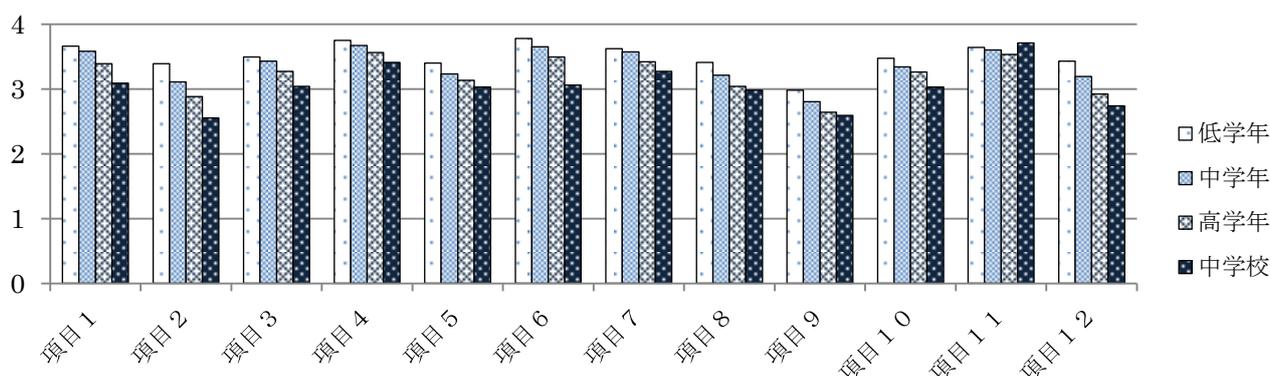


図 2 1 回目の調査結果（質問項目別得点）の小学校（低学年、中学年、高学年）と中学校の比較

1回目の調査結果を「運動が好き」群と「運動が好きではない」群とで比較した（表3、図3～図6参照）ことから、本県の児童、生徒の運動に対する意識や行動について次の傾向が見られました。

- 運動に対する意識が、運動に対する行動や体育に対する意識や行動に大きく影響する傾向にあります。この傾向は、体力・運動能力の向上を図るうえで重要な鍵を握っていると考えられます。
- 「体育の時間が好き」という項目において、「運動が好き」群は、学年に関係なく高い意識が見られ、「運動が好きでない」群は学年が上がるにつれて著しく低下する傾向にあります。逆を言えば、低学年の児童は「運動が好き、好きでないに関係なく、体育は好き」という傾向でもあります。ここに、運動に対する意識に関する課題を解決するヒントがあると考えられます。

表3 質問紙調査の1回目の調査結果（「運動が好き」群と「運動が好きでない」群）

項目	運動が「好き」「だいたい好き」回答群				運動が「あまり好きではない」「好きではない」回答群			
	小学校			中学校 n=473	小学校			中学校 n=142
	低学年 n=843	中学年 n=852	高学年 n=796		低学年 n=54	中学年 n=60	高学年 n=112	
1	3.80	3.70	3.62	3.54	1.59	1.69	1.72	1.59
2	3.50	3.18	3.06	2.89	1.86	1.79	1.60	1.41
3	3.63	3.48	3.44	3.39	2.33	2.23	2.02	1.89
4	3.78	3.71	3.65	3.62	2.90	2.85	2.76	2.71
5	3.44	3.25	3.25	3.22	2.42	2.49	2.44	2.41
6	3.81	3.73	3.68	3.40	3.06	2.31	2.11	1.94
7	3.71	3.61	3.55	3.45	2.83	2.77	2.55	2.63
8	3.46	3.23	3.21	3.22	2.61	2.39	2.22	2.17
9	3.13	2.87	2.77	2.86	2.14	1.69	1.80	1.65
10	3.57	3.40	3.44	3.36	2.42	2.42	2.02	1.93
11	3.71	3.62	3.65	3.81	2.61	2.98	2.60	3.41
12	3.50	3.25	3.08	3.04	2.63	1.92	1.84	1.75

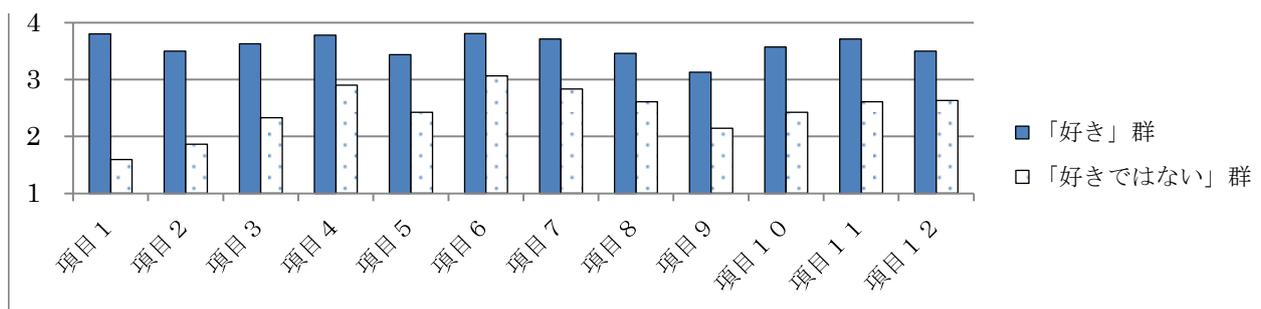


図3 小学校低学年児童の「運動が好き」群と「運動が好きでない」群の調査結果（質問項目別得点）の比較

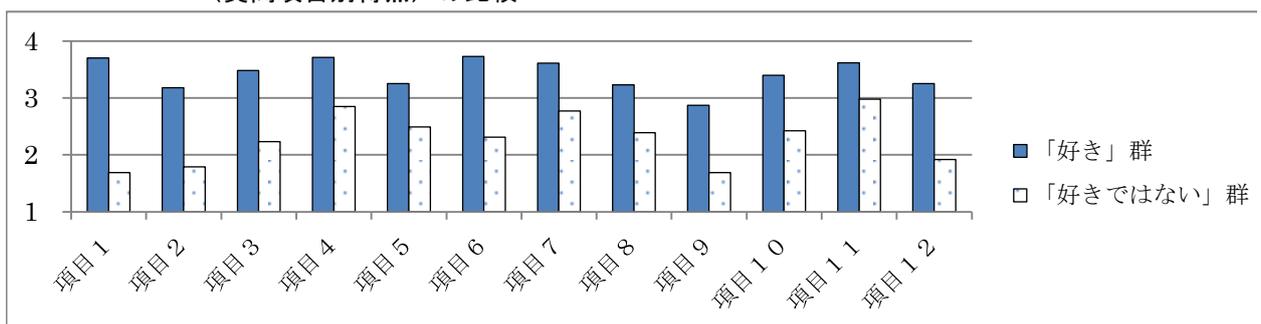


図4 小学校中学年児童の「運動が好き」群と「運動が好きでない」群の調査結果（質問項目別得点）の比較

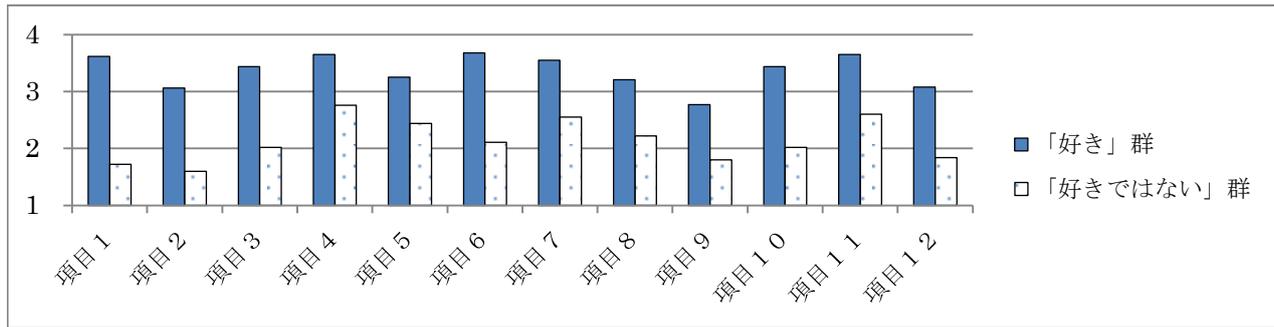


図5 小学校高学年児童の「運動が好き」群と「運動が好きでない」群の調査結果 (質問項目別得点) の比較

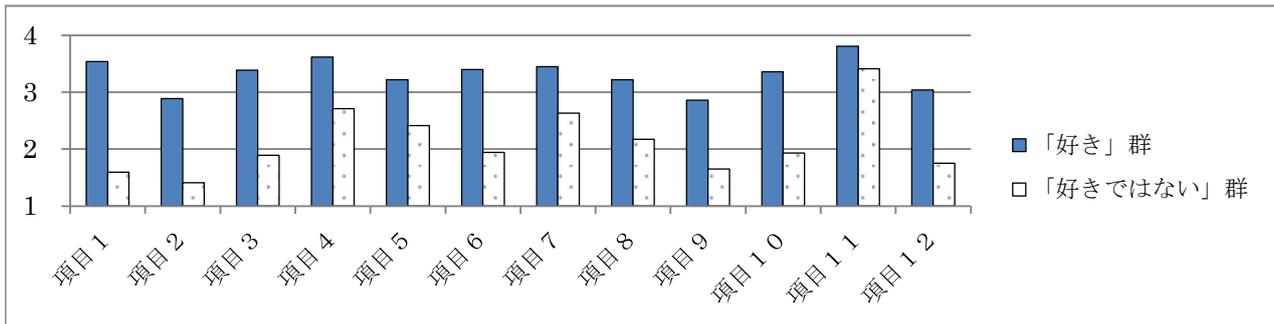


図6 中学校生徒の「運動が好き」群と「運動が好きでない」群の調査結果 (質問項目別得点) の比較

表4は、項目1において、運動が「あまり好きでない」「好きでない」と回答した児童、生徒（「運動が好きでない」群）の全体に占める割合になります。「運動が好きでない」群の割合は、学年が上がるにつれて上昇する傾向にあります。つまり、学年が上がるにつれて「運動も体育も好きでない」児童、生徒が増加していることを示しています。体力・運動能力の向上を図るうえで大きな課題と考えられます。

表4 質問紙調査の1回目の調査結果 (「運動が好きでない」群の割合)

小学校	低学年	6.0%
	中学年	6.6%
	高学年	12.3%
中学校		23.1%

③ 体力向上モデル地域の取組について

体力向上モデル地域の中から一地域を抽出して、1回目と2回目の調査結果を比較しました。対象は、平成27年度体力向上実技指導教室（キャラバン隊）に参加した学校（学級）の児童生徒（小学校1校6年生、中学校1校3年生）です。（表5参照）

2回目の調査が11月に行われたことから、中学校3年生の運動に対する行動について低下が見られますが、実技指導教室（キャラバン隊）の成果として次のことが考えられます。

○ 実技指導教室に参加した児童生徒は、運動の楽しさに触れることを通して、「運動が好き」になり、「体育が好き」になる傾向が見られます。

表5 質問紙調査の1回目と2回目の調査結果 (実技指導教室に参加した学校の児童生徒)

項目	小学校6年生 n=18		中学校3年生 n=67	
	1回目	2回目	1回目	2回目
1	3.56	3.61	3.07	3.16
2	3.22	3.17	2.54	2.66
3	3.39	3.28	3.10	3.13
4	3.56	3.72	3.39	3.27
5	3.67	3.50	2.89	3.01
6	3.61	3.67	3.11	3.30
7	3.61	3.83	3.20	3.15
8	3.33	3.44	3.07	3.04
9	3.33	2.94	2.59	2.40
10	3.39	3.50	2.80	2.48
11	3.67	3.83	3.64	3.63
12	3.06	3.06	2.79	2.66

(3) まとめ

以上の結果から、今後、学校等において、体力・運動能力の向上に取り組むうえで、以下の点に留意する必要があると考えられます。

① 幼少期に外遊びやいろいろな運動ができる環境を

平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書の中で、「幼少期の運動経験が体力・運動能力に及ぼす効果」として、下記の内容を報告しています。幼少期における運動や外遊びの経験の重要性が示されています。

- 小学校入学前に運動が好きな子どもは小学生になっても運動が好きである傾向が見られます。
- 小学校入学前にいろいろな内容で体を動かす遊びを経験してきた小学生は、小学生になってもよく運動しており、新体力テストの体力合計点で高い結果である傾向が見られます。

外遊びや運動ができる環境をつくりましょう。子どもたちを取り巻く環境は、子どもたちの体力が高かった昭和後期と大きく違います。子どもたちが外遊びや運動を楽しむために、教師や保護者等の大人がその環境を整えていくことが大切でしょう。特に、就学前や低学年の子どもたちには、そのことが重要です。

外遊びや運動を行うために、子どもたちの「時間」「空間」「仲間」が必要であると言われています。その3つの「間」をつくるためには、大人の「手間」という4つ目の「間」が必要でしょう。

② 「体育が好き」から「運動が好き」へ

学年が上がるにつれて、「運動は好きでないけれど体育は好き」という子どもたちが「体育も好きでない」になっていくこと、「運動が好き」という子どもたちが「運動が好きでない」になっていくことが、体力・運動能力の向上を図るうえで大きな課題です。その課題解決の鍵を握るのが「体育の授業の工夫」であると考えています。

今回の実技指導教室（キャラバン隊）は、体育の授業の一環として実施しました。体育の授業の中で「運動の楽しさに触れる」「運動ができるようになる」経験をした子どもたちは「体育が好き」になり、「運動が好き」になる傾向が見られました。

平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の割合が高かった学校を調査分析し、「児童生徒が『楽しい』と感じる体育・保健体育」の特徴を下記のように示しています。

- 教師は「**苦手意識を持たせない**」ことを指導上特に大切にし、**努力を要する児童、生徒に対しては一人一人の運動能力や技能の実態に応じた取組が積極的に行われている授業**
- 「**授業のはじめに目標が示されている**」「**授業の最後に学んだことを振り返る活動が行われている**」「**友だちと助け合ったり話し合ったりするような活動が行われている**」授業

体育の授業を工夫していくことによって、「体育が好き」な子どもたちをつくりましょう。そのことによって、「運動が好き」な子どもたちが育ち、子どもたちは「運動に親しむ」習慣を身に付けていくことでしょう。

体力・運動能力の向上のために大切なことは、「運動の日常化・生活化」です。外遊びや運動ができる環境づくりと体育の授業の工夫が求められています。